Generated Document.

(11) Publication number:

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(21) Application number: 61156067

(51) Intl. Cl.: **B21B 13/14** B21B 13/00

(71) Applicant: HITACHI LTD

(22) Application date: 04.07.86

(30) Priority:

(43) Date of application publication:

20.01.88

(84) Designated contracting

states:

(72) Inventor: TAKANO TOSHIO MITSUI HIROMITS

(74).Representative:

(54) ROLLING MILL

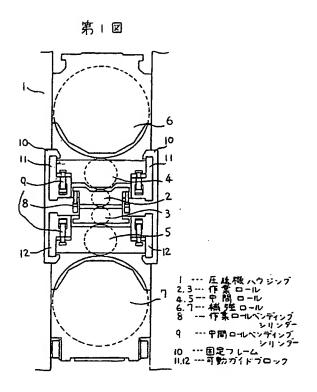
× Abstract Drawing

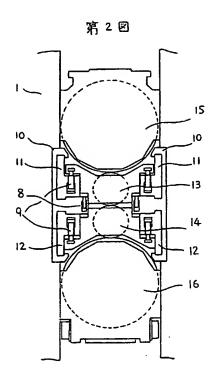
(57) Abstract:

PURPOSE: To deal with rolling of a relatively wide range of thicknesses from thin to thick sheet materials by permitting the use of one unit of rolling mill as a rolling mill to be commonly used as six high mill and four high mill by changing rolls.

CONSTITUTION: Cylinders 8 for work roll benders are built into stationary frames 10 fixed to a rolling mill housing 1 and intermediate roll bending cylinders 9 are built into movable guide blocks 11, 12 supported to the frames 10 movably in the roll axial direction. The intermediate rolls 4, 5 of such six high mill move in the roll-axial direction simultaneously with the movable guide blocks 11, 12. One unit of the rolling mill can be changed from the six high mill to the four high mill or from the four high mill to the six high mill and is thus selectively used by using the frames 10 and the movable guide blocks 11, 12 as they are and changing the roll assembly.

COPYRIGHT: (C)1988, JPO& Japio





⑩ 日本国特許庁(JP)

⑩特許出願公開

⑫公開特許公報(A)

昭63 - 13603

@Int.Cl.4

庁内整理番号 識別記号

@公開 昭和63年(1988)1月20日

B 21 B 13/14 13/00 F-7728-4E E-7728-4E

審査請求 未請求 発明の数 1 (全4頁)

❷発明の名称 圧延機

> 頤 昭61-156067 ②特

昭61(1986)7月4日 砂出 頤

砂発 明 者 쩞 高 野

茨城県日立市幸町3丁目1番1号 株式会社日立製作所日

立工場内

光 砂発

茨城県日立市幸町3丁目1番1号 株式会社日立製作所日

立工場内

株式会社日立製作所 ⑪出 願 人

外2名

. 弁理士 小川 勝男 の代 理 人

1. 免別の名称

压延機 . 2. 特許請求の範囲

- 1.上・下各一対の作業ロール、中間ロール、お よび勧強ロールを有する圧延機と、上・下各一 対の作業ロールおよび補強ロールを有する圧延 機とを1台の圧延機にて、圧延条件の変化に応 じて机砂丸可能な亜川圧低機に於いて、前配中 間ロールをロール勢力向に移動関節させ、かつ。 圧延材の形状制御を行うためのロールベンディ ング製配を備えた可動ガイドブロツクを、鉄紀 作業ロールをロール軸方向に移動関節させ、か つ、ロールペンデイング装置を借えた可助ガイ ドブロツクと兼川したことを特徴とする圧延機。
- 3. 発明の詳細な説明

(産業上の利用分野)

本務明は、上・下各一対の作業ロール、中間ロ ール。および補強ロールを有する圧延機と、ト・ ドキー対の作乗ロールおよび稲独ロールを有する 圧越機とを兼用する圧延機に係り、特にロールを 相動案内する可動ガイドブロックに関する。

(従来の技術)

東京都千代田区神田駿河台4丁目6番地

從来一般的に使用されてきた上・下各一対の作 単ロールおよび植独ロールを行する4段型圧延機 においては、圧延材の形状制御手段として作業な ールのペンデイング状が広く使用されているが、 圧延慢の形状を制御する修正値力には股度があり、 特に圧延材の仮似が大幅に変化する場合には充分 なる効果は発揮し物ないのが実情である。この為 これまでの圧延設費においてはある程度の形状態 化は不回避なものとして感認するか、あるいは圧 延材の板幅が変化する部度作業ロール交換を行い ロールのイニシャルクラウンを変化させる手段が とられてきたが、いずれにしても圧延材に対する 形状修正能力は低く、非能率的でもあつた。

圧延材の形状体形能力を大制に向上させた圧延 機として、特公則52-26508 分および、特問報 56-66307 分があるが、本形延慢は6段烈圧延慢 における中間ロール、あるいは1段型圧延機にお

(z)

ける作品のにも動き出て、数ロールをロールを立ち、数ロールを立ち、ないは、ないのでは、ないでは、ないのでは、ないのでは、ないでは、ないでは、ないではないではないでは、ないではないでは、ないではないでは、ないではないではないではないではないではないではないではないではないでは

しかし 6 段数圧延機においては、圧延材のより 広幅化、存物化・硬質材化されると共に一層の効 圧下圧延を目ざす為に作業ロール程の小径化が必 変となり、比較的厚物材の圧延に対しては不向き である。また作業ロールの小径化に伴い圧延時に おける作業ロールの水平方向への変形が発生し、 圧延材形状への悪影響が懸念される。

(3)

明での圧延を可能ならしめる為、6段型圧延機における中間ロールシフト 被費および中間ロールベンディング装置を、4段型圧延機における作業ロールシフト装置および作業ロールペンディング装置として無用可能を構造とし、6段型圧延機用作業ロールを4段型圧延機用ロールを6段型圧延機用ロールを6段型圧延機用ロールを6段型圧延機の無用ロールを6段型圧延機と4段型圧延機の乗用化を針ることができる。(海底解)

本発明による実施例を図面により説明する。 第1図は本発明による6段型圧延慢である場合 の実施例を示すものである。

本圧延機においては、圧延材を直接圧延する上・下一対の作業ロール2,3および貧ロール2,3を支承する上・下一対の中間ロール4,5さらに該ロール4,5を支承する上・下一対の補強ロール6,7によりロール配列が構成されており、中間ロール4,5をロール輪方向にそれぞれ反対

(発明が解決しようとする問題点)

上配従来技術において、圧延される圧延材の板厚範囲が、6位型圧延機においては奪物材、また4度型圧延機においては即物材と明報され、圧延材の板厚に応じて関々の圧延取御を必要とするなど不経済であった。

本発明の目的は、新物料から移物材までの比較的広い範囲の低度に対応すべく、1 台の圧延機により6 段景圧延慢と4 段間圧延慢とを兼別することにある。

(問題点を解決するための手段)

上記目的を連成する為、関物・広幅材の圧延においては小穏作業ロールを使用する G 段型圧延慢として使用し、さらに関物材の圧延においては大様作業ロールを使用する 4 段型圧延慢として使用するよう、ロールを制智えることにより 1 台の圧延慢を G 段型圧延慢、および 4 段型圧延慢との無用圧延慢として使用するものである。

(作用)

圧延材の移物材から厚物材までの比較的広い範(4)

.

方向に移動させることにより中間ロール4.5と作業ロール2,3および相効ロール6,7とのロール接触扱さを関節し、これによつて作業ロール2,3を介して圧延材に加えられる圧延力の荷頭分布を中間ロールと接触しない作業ロール始節において滑去せしめ、作業ロール2,3の圧延荷取による曲がりを助止する機構成されているものである。

また本圧延慢は、圧延材の形状物物数をとして作業ロールペンデイング数で及び中間ロールペンデイング数で及び中間ロールペングを収集ロールペングをでは、圧延機ハウジング1に、 では、圧延機ハウジング1に、 日間ロールペンディングシリンダー 0 は 日間 2 では、 日間 2 では、 日間 2 では、 日間 3 では、 日間 4 では、 日間 5 では

(5)

動するものである。

第2回は本発明による4段型圧延機である場合 の実施側を示すものである。

本圧延慢においては、圧延材を直接圧延する上・下一対の作業ロール13、14および隙ロール 13、14を支泳する上・下一封の補強ロール 15、16によりロール配列が構成されている。

ここで作業ロール | 3、14は、前記6段型圧 延機において固定フレーム10にロール動方向に 移動可値に支持された可動ガイドブロック11、 12と関時に移動可値に係合されている。

つまり第2回に示すれ段型圧延機において、作業ロール13、14は第1回における中間ロール4、5と同様に可動ガイドブロック11。12と同時にロール軸方向に移動可能であると共に、可動ガイドブロック11。12に組込まれたロールベンデイングシリンダー9による圧延材の形状制物が可能なる構造となっている。

ロールアツセンブリーを相替えることにより 6 取型圧延材機から 4 段對圧延機、あるいは 4 段型

ルにより良好な圧延材の形状制御が可能である。 また使用圧延緩の為設備費の促滅が計れる。

4. 図面の簡単な説明

第1回は本発明の一実施例の6段型圧延機を示す正面回、第2回は同じく4段型圧延機を示す正面回である。

1 … 肝延慢ハウジング、2、3 … 作棄ロール、4、5 … 中間ロール、6、7 … 補効コール、8 … 作業ロールペンディングシリンダー、9 … 中間ロールペンディングシリンダー、10 … 固定フレーム、11、12 … 可動ガイドブロック、13、14 … 作乗ロール、15、16 … 補強ロール。

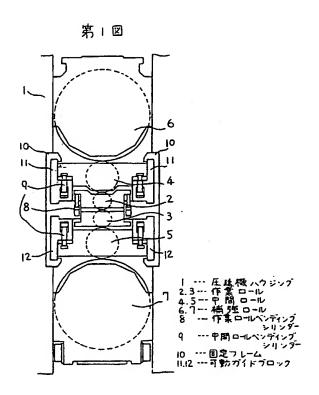
代照人 弁理士 小川田男

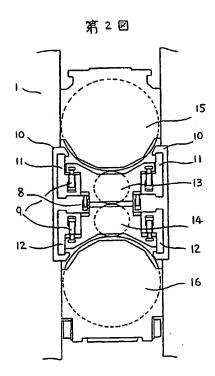
圧延機から6段限圧延機への機関が自在であり、この際圧延機ハウジング1に関定された固定フレーム10、および可動ガイボブロンク11、12・はいずれの圧延機の場合にもそのまま液用可能な検流となっている。

(発明の効果)

本税明によれば、

- 1.6段型に延機において、作業ロールおよび中間ロールベンディング製鋼と、中間ロールの軸方向移動構造とにより形態材の形状制御性値の高い圧延慢が延供でき、高品質の圧延材の生産が可能である。
- 2. 4 段型圧延機において、作業ロールペンデイング装置と作業ロールの轄方向移動構造とにより、圧延材のエンジドロンブの修正能力向上が 計れると我に、作業ロールの局部庫託を防止し それに配因する圧延材の金額防止が計れる。
- 3. ロールを創替えることにより6 段型圧延機と 4 段型圧延機とを1 台の圧延機にて使い分ける ことができ、圧延材料に応じた圧延スケジュー (8)





This Page is Inserted by IFW Indexing and Scanning Operations and is not part of the Official Record

BEST AVAILABLE IMAGES

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images include but are not limited to the items checked:

□ BLACK BORDERS
□ IMAGE CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES
□ FADED TEXT OR DRAWING
□ BLURRED OR ILLEGIBLE TEXT OR DRAWING
□ SKEWED/SLANTED IMAGES
□ COLOR OR BLACK AND WHITE PHOTOGRAPHS
□ GRAY SCALE DOCUMENTS
□ LINES OR MARKS ON ORIGINAL DOCUMENT
□ REFERENCE(S) OR EXHIBIT(S) SUBMITTED ARE POOR QUALITY

IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.

OTHER:

As rescanning these documents will not correct the image problems checked, please do not report these problems to the IFW Image Problem Mailbox.